

## 2 グラムの心遣い

東京都立桜修館中等教育学校四年（東京都）

小俣 由乃

京都好きのおばあちゃんと叔母さんに連れられて家族で京都旅行に行った。私が京都に行くのは、同じように連れてこられた小学生以来二回目だ。目的としては、ちょうどその時期にやっていた祇園祭を見に行くことがメインだった。

夕方ごろにホテルに着き、祇園祭りの山鉦を見に行くために着替えをしていると、ポットやグラスなどが置いてあるところに、お茶碗とお抹茶の粉、そして茶筌があることに気付いた。夏休みで部活の回数もそこまでない中、「久しぶりにお茶が点てられる！」と喜びながらお茶碗や茶筌を見ていると、お抹茶が小分けのスティック状にされていることに気づいた。気になって手に取ると、ぴったり2グラムで包んである。この2グラムは、以前のお稽古で先生に教えていただいた、お茶を点てるのに最も最適な量、であったのでとても驚き、また点てやすいようにそのような状態

でお客さんに提供する、というおもてなしの心意気に感動した。

その近くのB4サイズくらいの説明書に点て方の記載があり、初めての方向けに作法を気にせず、美味しく点てられる方法が書いてあった。さらにこれによると、お茶のメーカーがこのためだけに作成しているもの、というのだ。別にもその部屋が和室なわけでも、お茶を点てる専用の台があるわけでもない。しかし、あまりなじみのない人もお茶を点てたり、そのお茶を飲んでみたりする経験ができる、という点では、とても良いものだった。相手への気持を表すという点で、作法にのっとることはとても大切であるが、あくまでもそれは皆がお抹茶を楽しむためにあるもので、礼儀を優先するあまりお茶を楽しむなくなってしまうのは本末転倒になってしまう。今年度の部活で後輩がたくさん入り、お茶会までに作法を教えきらなければいけない、という思いに囚われていた私は、後輩たちに厳しく注意しすぎていたかもしれない。時には厳しさも必要だが、まず茶道の楽しさを伝えるべきである。そのことを再確認した今回の旅であった。